



中国では、農業分野の温室効果ガス（GHG）の排出量が減っている。生産の効率化や低炭素政策の後押しが背景にある。国内総生産（GDP）当たりの排出量も、米国やドイツよりも低く、注目を集めている。



中国の農業分野での省エネ

地球環境戦略研究機関主任研究員 金振氏

2024～26年の農業機械
1台当たりの主な補助金額

項目	補助金基準(元)
耕起・整地機械類	390～12900
植え付け・施肥機械類	950～18880
圃場(ほじょう)管理機械類	780～21000
収穫機械類	1000～68000
飼料(牧草) 収穫・処理・輸送機器類	5400～111900

中国農村部資料などから作成

政府が低炭素化支援

中国農業科学院が9月に発表した「2024年中国農業農村低炭素発展報告」によると、農業分野のGHG排出量は18年には、14年に比べ4・34%減の7億9300万ト。

GDP当たりのGHG排出量も減少した。18年の農業GDPは、1994年に比べ6・7倍の6兆4700億元（1元20円）と増えたが、1万元GDP当たりの排出量は5分の1程度の1・17トと減り、米国やドイツを下回った。

農業分野のGHG排出メカニズムに合わせた低炭素支援策が奏功した。そこで、まず、穀物主産地の11省の穀物別GHG排出要因を分析した現地報告書を

報告書によると、小麦生産の場合、GHG排出量の37%は、かんがい用の電力消費によるもので最も多い。次に、28%は窒素肥料、25%は農業機械の燃料使用によるものの順となった。

トウモロコシの場合、窒素肥料が39%と最も多く、次に農業機械の燃料（20%）、かんがい用の電力消費（18%）となった。かんがい設備や農業機械の省エネ化が農業分野のGHG削減の重要な課題に浮上し、関連対策の実施につながった。

その一つが農業機械の支援策だ。9月に発表した政府の農業機械に対する補助額からも、高効率機器の普及に力を入れることがうかがえる。例えば、収穫能力が1秒当たり1・3トの収穫機械の補助金額は、1台当たり1・17万元だが、収穫能力が11ト以上の機種に対しては6・8万元と、およそ6倍の補助金が交付される。

一定規模以下の発電設備やボイラーなどを一律に淘汰（とうた）する産業部門の気候変動対策と異なり、小規模農業機器も補助金の対象となり、今後の低炭素化の加速が期待される。